

第1698号

2024年
1月15日

定価1部300円
定期購読
半年 5400円
1年 10000円
振替番号
00140-5-95121

労働新聞

http://japanlabor.party/ shinbun@japanlabor.party

日本労働党中央委員会機関紙

発行所 労働新聞社 本社 〒102-0072
東京都千代田区飯田橋4-1-5 ポザール飯田橋2階
編集発行人 高橋信 電話 03-3265-6506 / FAX 03-3265-6507

北海道支社
〒001-0033
札幌市北区北33条
西6-1-10-206
電話 011-558-4441

関西支社
〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-8
-29チサン第3新大阪501
電話 06-6586-9920

九州支社
〒812-0042
福岡市博多区豊1-3-8-302
電話 092-483-1344



道路の損壊と寸断で救援が遅れている (石川県内灘町)

岸田政権は救援のピッチ上げろ

能登半島地震で友人が被災

熊本県・大野 正広

年明けの石川県能登地方を襲った地震で倒壊した家屋や寸断された道路などの映像を見て、私が経験した8年前の熊本地震の記憶がよみがえった。

連日余震が続いており被害の状況や避難している人びとの厳しい状況が報道されているが、発生して10日以上経過しても、道路事情が悪く、孤立状態にある人びとも多く、被害の全貌はまだわからない。停電や断水が続いて避難所の衛生状態が悪化しているところも多い。多くの人が身を寄

せている避難所の様子などを見ると、政府の対策は後手後手という状況で、これまでに何度も経験してきた大地震の教訓が生かされていない。木原防衛相は在日米軍の支援を受け入れると表明しているが、自前の救援部隊を大幅に増員することが先ではないか。

道路寸断で身動きできず
震度7の地震に見舞われた石川県志賀町の友人に、

現地の様子を聞いた。

「元日の地震は、2007年の能登半島地震の大きさと比べものにならない激しい地震だった。初めて体験する大きな地震で、戸がはずれたりガラスが割れたり、部屋の中はめちゃくちゃになった。道路が寸断されているので動き回れない。余震がひどく、6日から近所の避難所に30人くらいで避難している。救援物資は届いていて、おにぎりや弁当など食事も提供されている。広い範囲で断水が続いて厳しい状況が続いているが、ここは簡易水道なので水は確保されている。役場に行ったら名古屋から消防のレスキュー車が30台くらい来ていた。自衛隊の救援で仮設の『風呂』が始まった。奥能登への道路は4本あるが、輪島や珠洲など奥能登のほうへは道路が寸断されているの

で物資が行き渡っているかどうか、状況はかなり悪いようだ。道路が傷んでいるので除雪車による除雪もままならない状況だ。ボランティアなどが来てても通行を遠慮してもらっている。先日、国会議員が来て話していたが、仮設住宅などの着手は数週間から2〜3カ月くらいはかかるという話だった。時間がかかるのは覚悟しなければ。うちの集落の1軒は、金沢から子供が迎えに来たので出ていった。もう帰ってこないだろう。周りの地区の家々も応急危険判定で『危険』の赤紙が張られている家が目立つ。これから冬本番になり、例年の積雪は40〜50センチあるので、倒壊する家も出るのでは。高齢者が多いので、家を新築できずに出ていく人が増えるのでは。過疎化が加速する。志賀町は工業団地があり2000人くらい働いているが、休み明けからどうなるかはわからない。輪島塗は地域の伝統産業だが、すでに阪神大震災で(受注が減り)打撃を受けていたところに、今度の震災でさらに大きな打撃になるだろう。とにかく自分もがんばらなければならぬ」

被災の規模や地理的条件が違うので、同じとはいえないが、救援部隊の規模は見劣りするスピードが遅いと感じる。熊本では、震災3日目には2万人以上の救援部隊が来ている。また、報道で見る限り避難所の状態も体育館に雑魚寝というような相変わらずの劣悪さである。寒さのなかで高齢者にとってはかなり厳しい状況である。熊本地震での死者は、地震で直接亡くなった人より災害関連死の方が多かった。

能登ではここ数年、毎年のように震度5〜6の地震が起こっていたのだから、備えをサボっていたとしたかと思えない。地震が起これば、道路が壊れて、たちまち物流がストップし、避難者だけでなく避難していない地域の人たちの食料や日用品をどう確保するのかにも直面する。

被災地の復旧や地域の復興、生活の立て直しはこれからの課題だが、岸田政権は遅れている現在の救援態勢を強化し、物流の確保などにさらにピッチを上げるべきである。

通信投稿

救援態勢を増強せよ

私は、8年前の熊本地震で被災し、避難所や4年間の見なし仮設での生活も経験し、復興住宅にようやく入居できたのは地震発生から4年後となった。いろいろなこととばかり時間がかかることだけは身にしみて体験した。

被災地の復旧や地域の復興、生活の立て直しはこれからの課題だが、岸田政権は遅れている現在の救援態勢を強化し、物流の確保などにさらにピッチを上げるべきである。

党創立50周年記念講演・躍進のつどい

日時：2024年1月27日(土) 12時半開場

会場：スクワール麹町(JR中央線四ツ谷駅)



日本労働党は1974年1月27日、労働者階級の前衛、共産主義を目指す革命政党として結党した。この50年間、転変する内外情勢のもとで一貫してアメリカを中心とする帝国主義に反対し、全世界の労働者人民、諸国の反抑圧の闘いを支持してきた。

ここに、資本主義の行き詰まりのなかでどんな社会をつくるのが問われている。わが党は、戦略的な方向としての社会主義、共産主義社会の実現を目指している。

その実現のために「独立の課題で主導権を握る」という政治路線が真価を発揮する時を迎えている。労働者階級と人民大衆こそが歴史と革命の推進力であることを確信し、労働者大衆と結びつき、党の飛躍的な建設を進めていきたい。

この党と革命運動の前進を願う、多くの友人・知人・支持者の皆さんに、そして全党の同志、日頃ご無沙汰している同志の皆さんにも、「党創立50周年記念講演・躍進のつどい」への参加、結集を熱烈に訴える。

本紙1月25日号は休刊し、2月5日号との合併号として発行します。

労働新聞社